

りんご生産情報（6月号）

令和3年6月17日
弘前西地区営農係

○ハダニの防除時期を逃さないよう予察を行いましょ！

1、りんごの肥大状況

6月11日現在の果実肥大は、各品種で平年並みから平年をやや上回る結果となりました。

単位：cm

	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
中崎（平場）	3.1	3.1	3.0	2.6
住吉（中間）	3.3	3.0	2.6	2.6
弥生（山手）	2.5	2.6	2.5	2.4
農協平均	3.1	3.3	3.0	2.7
平年値	2.7	2.8	2.7	2.4

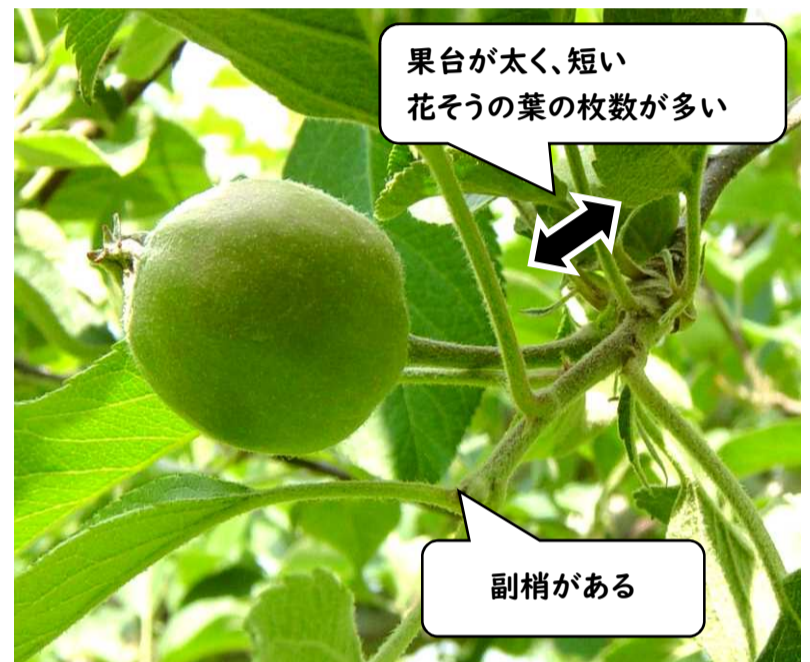
2、摘果作業

6月は枝・葉・根の生長が旺盛で、養分を競脱し、生理不順になりやすい時期です。また、品種によっては6月末から花芽形成時期に入ります。養分の分散を防ぎ、果実品質を向上させるためにも、強い摘果を心掛けましょう。

なお、本年は凍霜害により中心果の欠落やサビ果が多く見受けられます。最終的な着果量を想像し、必要な場合は新梢の基部も利用しましょう。また、サビ果など障害果も判別ができる時期ですので、積極的に摘果しましょう。

◎仕上げ摘果のポイント

来年の花芽形成を促すため、7月上旬を目安に行う。
充実している花そうに成らせる。（右図参照）



3、薬剤散布

6月中は前回からの散布間隔は10日以内で降雨前散布を徹底しましょう。

また、リンゴハダニ（赤ダニ）、ナミハダニの発生が確認されております。発生量が多くなると、殺ダニ剤を散布しても対応しきれない場合があります。今後は予察を行い、発生しているダニに合わせた農薬を散布しましょう。

散布時期 反当散布量	対象 病害虫	薬剤名 及び混合順序	倍 数	1000ℓ 当り薬量	防除上の注意
8回目 落花40日後（6/24頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・輪紋病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 アブラムシ・ギンモンハダニ	オキシンドー水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 カルマツチ	1,200倍 4,000倍 770倍	835g×1袋 250g×1袋 1.3kg×1袋	・散布間隔は10日以内とし、降雨が予想される場合は、前倒して散布してください。 ・ハダニの発生予察を行い、発生が早い場合は殺ダニ剤の早期散布を検討しましょう。 ※マイトコーネはナミハダニのみ効果があります。
9回目 7月初め（7/4頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・斑点落葉病 すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 キンモノガ・ギンモンハダニ	オキシンドー水和剤 アーデントフロアブル マイトコーネフロアブル カルマツチ	1,200倍 2,000倍 1,000倍 770倍	835g×1袋 250ml×2本 500ml×2本 1.3kg×1袋	・アブラムシの発生が多い場合は、ウララDF・コルト顆粒水和剤・トランスフォームFL いずれかの剤を加用して散布しましょう。
10回目 7月半ば（7/19頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 コカクモハマキ・ギンモンハダニ	オキシラン水和剤 フェニックスフロアブル	500倍 4,000倍	1kg×2袋 250ml×1本	
11回目 7月末（8/3頃） 500ℓ/10a	黒星病・褐斑病・炭そ病・腐らん病 斑点落葉病・すす斑・すす点病 モシクイガ・ハダニ類 ナミハダニ・ギンモンハダニ	ダイパワー水和剤 バリアード顆粒水和剤	1,000倍 4,000倍	1kg×1袋 250g×1袋	

4、袋かけ作業

袋かけは落花50日頃が目安となるため、7月10日頃までに作業を進めましょう。

袋をかける際には、もう一度着果量を確認し、成らせ過ぎにならないよう注意しましょう。袋かけは薬剤散布後5日以内に行い、間隔が空いた場合は、殺菌剤（チオノック等）で実洗いを行いましょう。

また、着果量が不足している園地では、積極的に有袋栽培に取組み所得確保に努めましょう。

令和3年産りんご予約受付実施中！！

現在今年産のりんご予約申込みを受付しております。受付期間は7月21日（水）までとなりますので、1箱でも多い予約をお願いいたします。

